

第 22 回山階芳麿賞受賞の言葉

この度は鳥類学の分野で最も権威がある山階芳麿賞を、頂くことができ、大変光栄です。

また今回の受賞が、個人ではなく日本雁を保護する会としての受賞であることは特にうれしく思っています。これは長年にわたり、多くの会員とともにやってきた、日本へ渡るガン類とその生息環境の保護・保全・復元活動全体が評価されたものと考えていますが、この喜びを保護する会の会員全員、および国外の関係者とも分かち合いたいと思います。

7月22日には、赤坂御用地内で日本雁を保護する会会長として、山階鳥類研究所総裁の秋篠宮殿下から山階賞を直接頂き、感激とともに思いを深めたことがあります。

それは絶滅寸前だったシジュウカラガンを、国内外の多くの方の協力を得て回復させることができたことです。

40年余りに及ぶ回復への歩みについては、保護する会発足50周年を記念して出版した「シジュウカラガン物語」(京都通信社, 2021) に詳しくまとめましたが、回復計画を始めた当時、日本へ渡来する個体は最大3羽しかいませんでした。保護する会の創設者で前会長の横田義雄(1905-2003)はその復活に強い思いを持ち、それが回復計画の原点となりました。

1980年の5月9日に、横田は春の園遊会に招かれ、赤坂御苑で昭和天皇とガンについての会話を交わし、その詳細が横田の随筆「5月9日のこと」に残されています。

陛下ご自身が皇居でガンを飼育されていたことや、シジュウカラガンにご関心があることなどが記され、会話はここで終わります。しかし、横田が一番伝えなかったのは、シジュウカラガンの復活を願う「横田の夢」だったと、その心中を述べています。その後シジュウカラガンは見事に復活し、その数は約1万羽まで増え、夢は現実になりました。

前会長の横田と昭和天皇のガンの会話から42年後の今年、同じ赤坂御用地内で、昭和天皇の孫に当たる秋篠宮総裁から、シジュウカラガン回復も含めた保護する会の活動が評価され、会長として山階賞を頂けたことは大変感慨深く、何か因縁めいたものも強く感じています。

更に今回、これまでの当会の活動について多くの皆様にお伝えできる記念講演の場を設けていただき、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。(918)

日本雁を保護する会 会長 呉地正行